

■朝倉貞景 武将。越前国の戦国大名。早世した父の後を受け、一向一揆を撃退し、越前支配と朝倉全盛の基礎を築いた。

あさくらさだかげ

義政隠居後見1473＝ 朝倉氏景の嫡男に生まれる。幼名孫次郎。孝景の孫。

山科本願寺・1479＝51歳：前関白一条兼良が、78歳という高齢を押して、越前に下向してきたり、弟子の宗長を伴って訪問してきた連歌師宗祇が、「老いのすさみ」を著すなど、応仁の乱後、越前の本拠地一乗谷に、京都から、公家や文化人の下向が常態になっているなか、育ち、

義政政権放棄1482＝ 9歳：

太田道灌暗殺1486＝13歳：父の死去により家督を継ぐ。若年のため、大叔父(孝景の弟)朝倉光玖の後見を受け、
..... 1487＝14歳：室町幕府將軍足利義尚の命を受けて、六角高頼攻めに出陣(長享の乱)、先陣として、大叔父(孝景の弟)朝倉景冬が近江国坂本に参陣したところ、先に尾張国から着陣していた斯波義寛が、將軍に越前国守護職復旧について訴え、論争の結果、朝倉氏の越前支配を認める裁定が下され、あわせて、細川政元に人質を出すこととされた。この時、加賀北半国の守護になっていた富樫政親も出陣、その隙に、一向一揆が活発化、
加賀一向支配1488＝15歳：政親は、將軍の許しを得て、帰国し一揆と対決したが、包囲され、落城・自決。加賀は本願寺の領国になり、以後、一向一揆との宿命的な対決が始まる。足利義政の命で、仙洞御所の松の東山山荘移植にあたった景冬は、お礼と威信のため、大々的に手伝普請。

銀閣寺完成・1489＝16歳：將軍義尚が死去、義政が、やむを得ず將軍に復帰するが、
足利義政没・1490＝17歳：將軍義政も死去。応仁の乱で没落していた足利義視・義材父子が上洛し、義材が新將軍になる。
大内義興入京1491＝18歳：美濃国で覇権を握った守護代斎藤利国の娘と政略結婚。義視の死去直後、將軍義材は、義尚の遺志を継いで、六角高頼征伐のため近江へ出陣(延徳の乱)、斯波義寛が参陣するも、静観していたところ、義寛が工作、再度將軍に訴えを起こし、朝倉貞景征伐の御内書が出され、
..... 1492＝19歳：六角高頼が敗走して、朝倉征討問題が本格化、越前支配権を必死に訴えて認められ、以後、訴訟問題は消えてしまい、結果として、朝倉一族の武力による越前支配は確立していたことが示された。

明応の政変・1493＝20歳：細川政元が叛旗を翻した明応の政変では、政元に協力して將軍義材を捕らえるが、義材が逃亡し、越中国放生津へ下向して越中公方を樹立すると、ただちにそのもとへ馳せ参じている。
..... 1494＝21歳：*足利義材の上洛挙兵に呼応して、加賀の一向一揆や甲斐氏の大軍勢が攻め込んで来るも、大勝利。美濃で勃発した舟田合戦には斎藤方として、自ら近江国柳ヶ瀬まで出陣したが、景冬が死去したため、帰陣。

早雲小田原城1495＝22歳：最後の決戦にも朝倉軍を派遣し、大勝。直後に、斎藤利国父子が陣没したため、近江から撤兵。
..... 1498＝25歳：越中国から一乗谷に入った義材は義尹と改名(越前公方)、滞在を歓迎するが、細川政元への気兼ねか、一向一揆の侵入を恐れてか、上洛支援は断る。

蓮如没..... 1499＝26歳：義尹は京都を目前に、細川軍に敗れ、周防国の大内氏を頼り、以後、8年滞在することになる。
..... 1500＝27歳：15年前に、氏景の死を弔って以降、この年まで9回、一乗谷を来訪した宗祇により、連歌が盛んになる。

..... 1503＝30歳：景冬の子景豊が、義父で孝景の妾腹の(父の弟)元景とともに謀叛を企てるも、(同じく父の弟)朝倉教景宗滴に知られ、その注進で、まず朝倉景豊を滅ぼし、予定の狂った元景は、やむを得ず、加賀に入り、
..... 1504＝31歳：画才に優れていたことを知られ、御料所の貢租増大をめざす後柏原天皇から、長大な子昭の絵を贈られている。*一向一揆の援助を受けて攻め込んで来た元景にも勝利して、家督を確実なものにした。

..... 1505＝32歳：元景は落ち延びた能登で病死。
..... 1506＝33歳：京の大和絵の絵師土佐光信に(「洛中洛外図」の文献上の初見)「京中図」を描かせている(現存しない)。_侵攻してきた最大規模の加賀・越中・能登の一向一揆勢の侵攻に、教景宗滴を総大将に迎えるうち、これを駆逐(九頭竜川の戦い)、国内の一向宗道場をすべて破却、所領も没収、

細川政元殺害1507＝34歳：大内義興に擁立された義尹が上洛し、再び、將軍。*奪還を狙って侵入してきた一向宗連を撃退して、戦国大名化、越前領国化を成し遂げ、以後、60余年にわたって越前には大きな戦乱は無く、全盛期を迎える。
..... 1509＝36歳：

早雲相模城・1512＝39歳：鷹狩りの途中に急死した。
..... 1512＝39歳：鷹狩りに参加し、京都の清水寺に法華堂(朝倉堂)を建立、一乗谷では、南陽寺の方丈を再興し、安波賀に経堂を建立している。妻が京都の公家と姻戚であったことから、禁中や三条西実隆らから、様々な文芸作品も贈られている。子の朝倉孝景(宗淳)が家督を継いだ。